

Trace eye Circular Economy 導入事例

静脈産業のDXで情報の断絶を解消 トレーサビリティにより資源循環を加速

株式会社ナカダイホールディングス様 / 株式会社ナカダイ 様



導入経緯 株式会社ナカダイホールディングス様は、資源を無駄なく循環させるサーキュラーエコノミーの実現に向けた取り組みを推進する先進企業です。資源循環を実現するには、マニフェストの情報を含め各工程のトレーサビリティの確保が不可欠です。この課題を解決すべく、静脈産業向けトレーサビリティシステム「Trace eye Circular Economy（トレースアイ サーキュラーエコノミー）」の導入に至りました。

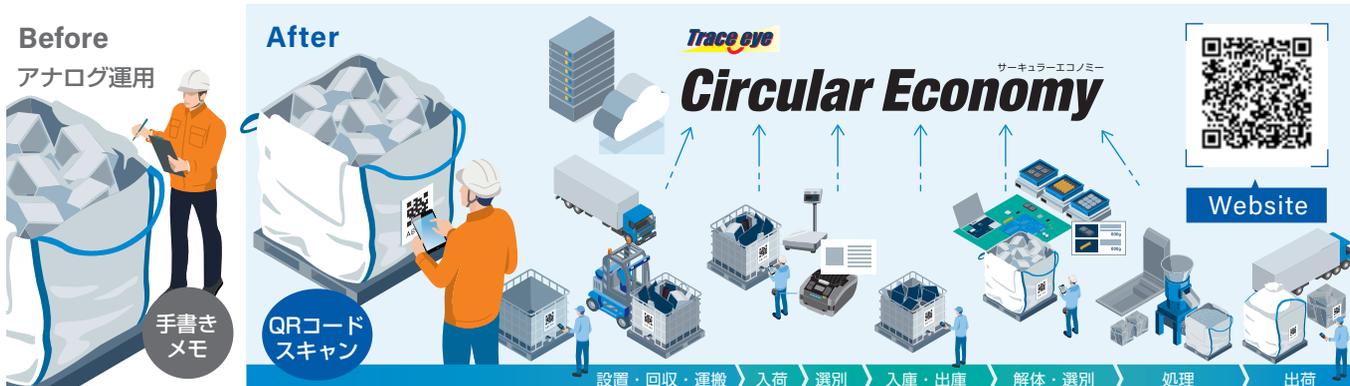
Before

- ・ 工程進捗がブラックボックス化し、アナログではトレースが困難
- ・ マニフェストなどの管理がアナログで非効率だった
- ・ 廃棄物を入れる容器を探す作業が日常的に発生していた

After

- ・ スキャンによる実績収集で **トレース管理が容易に**
- ・ 即時データ化により、**リアルタイムで進捗確認が可能**
- ・ 容器所在の可視化で、**探索が容易に**

導入製品・システム



株式会社ナカダイ 常務取締役 後藤 進 様 / リソーシング事業部 生産グループ グループ長 ヴラサーク ミロ斯拉ヴ 様
リソーシング事業部 生産グループ グループリーダー 相馬 玲子 様

背景・課題

サーキュラーエコノミーの実現には処理工程の透明化が不可欠だった



後藤 様

後藤氏：当社は、2000年の「循環型社会形成推進基本法」施行を機にリサイクル事業へ本格参入しました。丁寧な選別をベースに、現在のリサイクル率は99%近くを実現しており、全国平均（約53%）と比較しても高い水準です。入荷と出荷の情報は明確でも、丁寧な選別で処理フローが複雑化することにより、途中工程の進捗をアナログ作業では把握しきれないことに対して長年、課題感がありました。

実際、これからの資源循環の時代になると、当社が進めてきた丁寧な選別は必須条件となります。それを生かしながら、取得できた循環素材に対して、どの廃棄物からどのような中間処理を経て取得できた素材かの証明が不可欠です。つまり、入荷から出荷までの工程進捗をトレースして情報化することにより、証明、透明化することが最重要課題となります。この入荷から出荷までのトレース情報をいかに効率的に取得するか、DX化が遅れていることは業界全体の課題だと考えています。

ミロ斯拉ヴ氏：マニフェスト管理を例にとると、法令で処理期限の管理を厳格に行う必要がある中で、以前は入荷した廃棄物に、企業名や品名識別のための手書きシールを貼り、作業完了後はそのシールを事務所に持って行き、マニフェスト事務所に渡してマニフェスト処理、という非常にアナログかつ負荷の大きい運用になっていました。また、アナログな伝達ではヒューマンエラーのリスクもありました。さらには、廃棄物を入れる容器一つとっても、工場のどこにあるのか、所在や在庫状況の把握に時間がかかり、探す作業が頻発していたことも現場の負担でした。複雑な処理フローを持つ当社にとって、これらの情報をデジタルで整理・蓄積し、活用することが業務上のクリアすべき課題でした。



効果・評価

トレーサビリティの確保と業務効率化の両立に成功

後藤氏：サトーさんとは3年ほど前に出会い、我々の課題感に対して検討を続けてきました。Trace eye Circular Economy（以下、Trace eye）を導入後は、入荷時にタグ付け、各工程ではスキャンするだけで入荷から出荷までの詳細なトレースが可能 became、その実運用をより効率的に行う検討を開始しています。

ミロ斯拉ヴ氏：Trace eyeによって、業務スピードが大幅に向上する可能性が見えてきました。シール集めなど、アナログで手動だった工程管理をPC・タブレット上でリアルタイムに進捗の確認が可能になりそうです。マニフェスト処理もデジタル化によって、処理終了日をTrace eye上で確認するだけで対応できる可能性もあることから、現場や処理担当者の負担も大きく減らせる可能性が見えてきたと思います。



相馬 様



ミロ斯拉ヴ 様

相馬氏：現場での作業の流れも大きく変わって行くと思います。以前は手書きで記録していましたが、今後はスキャンするだけで情報をシステムに蓄積することができます。また、探すのに時間がかかっていた容器もシステム上で可視化されるようになり、処理工程の確認もパソコン上で確認できるので、管理する上でも 格段に効率が上がる事を期待しています。

後藤氏：将来的には廃棄物の自動計量などを活用した自動化も視野に入れ、効率化によって生まれた人的リソースを廃棄物の選別など、当社のコア業務に集中させたいと考えています。Trace eyeを活用し、資源循環社会に貢献できる体制を構築していきたいですね。

株式会社サトー お問い合わせ先 ☎ 0120-226310
www.sato.co.jp 受付時間：24 時間 365 日

全国の営業拠点一覧はこちらへアクセスしてください

■記載内容は2025年11月現在のものです。
■製品改良のため断りなく仕様を変更することがありますのでご了承ください。
■いかなる形式でも本誌の一部または全部の複製および無断転載をお断り致します。
■記載されている会社名、ソフトウェア名、製品名などは各社の商標、または登録商標です。
■QRコードは株式会社サトーの登録商標です。

